

令和5年7月6日(木)

医療観察制度について

盛岡保護観察所 社会復帰調整官室
統括社会復帰調整官 高澤 泰史



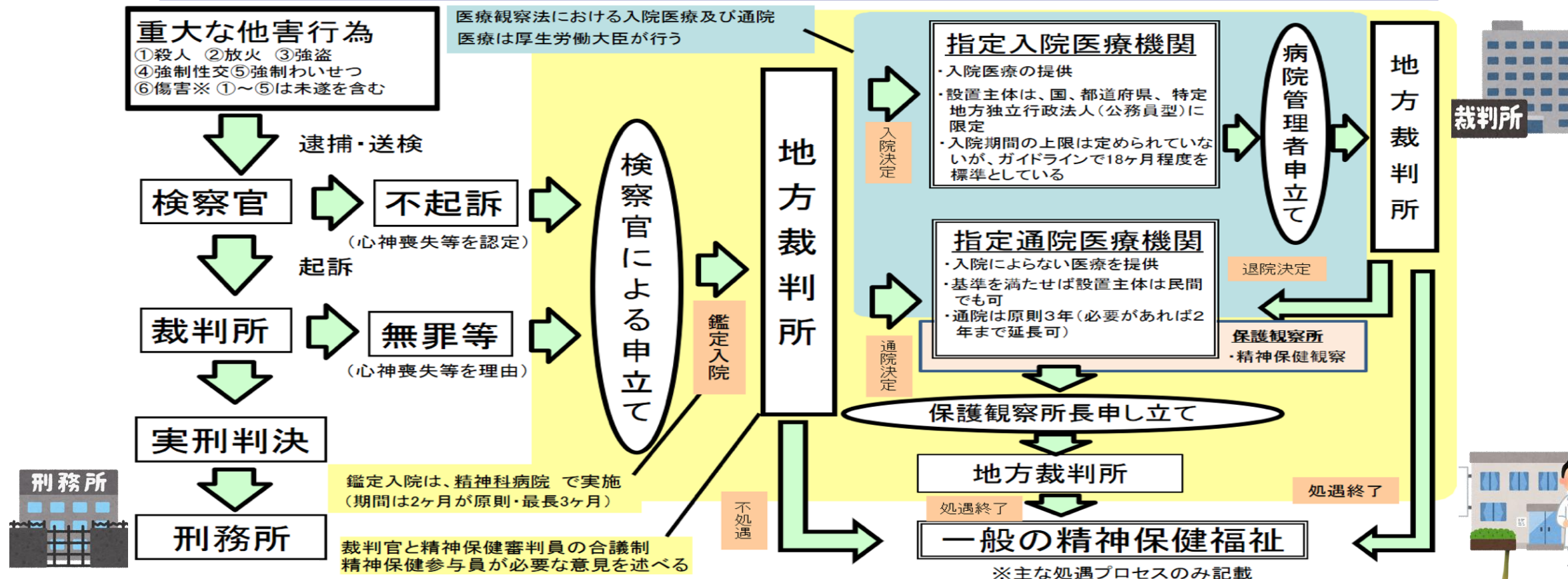
制度の概要

心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医療観察法）の仕組み

（制度は、法務省・厚生労働省共管）

平成15年7月成立・公布、平成17年7月15日施行

心神喪失等で重大な他害行為を行った者に対して、継続的かつ適切な医療並びにその確保のために必要な観察及び指導を行うことによって、病状の改善及び同様の行為の再発防止を図り、その社会復帰を促進するよう、対象者の処遇を決定する手続等を定めるもの。





制度の対象者


【対象となる者は】

重大な他害行為を行い、


- ①心神喪失者又は心神耗弱者と認められて**不起訴処分**となった者
- ②心神喪失を理由として**無罪の裁判が確定**した者
- ③心神耗弱を理由として**刑を減軽する旨の裁判が確定**した者
(裁判確定時に執行すべき刑期があるものは除く)

【重大な他害行為とは】

- ①殺人、②放火、③強盗、④強制性交等、⑤
強制わいせつ、⑥傷害(軽微なものを除く)
※傷害以外は未遂を含む。



※本制度は、このような対象者の病状の改善を図り、社会復帰を促進することが目的です。
そのためには適切な医療と手厚い福祉支援が不可欠になります。





岩手県内における制度運用状況

(平成17年7月15日～令和4年10月31日(速報値))

1 生活環境調査事件(当初審判)

受理件数	入院決定	通院決定	不処遇	却下等	審理中
65	44	9	8	3	1

2 生活環境調整事件

開始件数	終結件数	退院許可決定	処遇終了決定	取消し・事件移送等	事件係属中
44	39	33	2	4	5

3 精神保健観察事件

開始件数	終結件数	期間満了	処遇終了	再入院・事件移送等	事件係属中
43	33	22	8	3	10

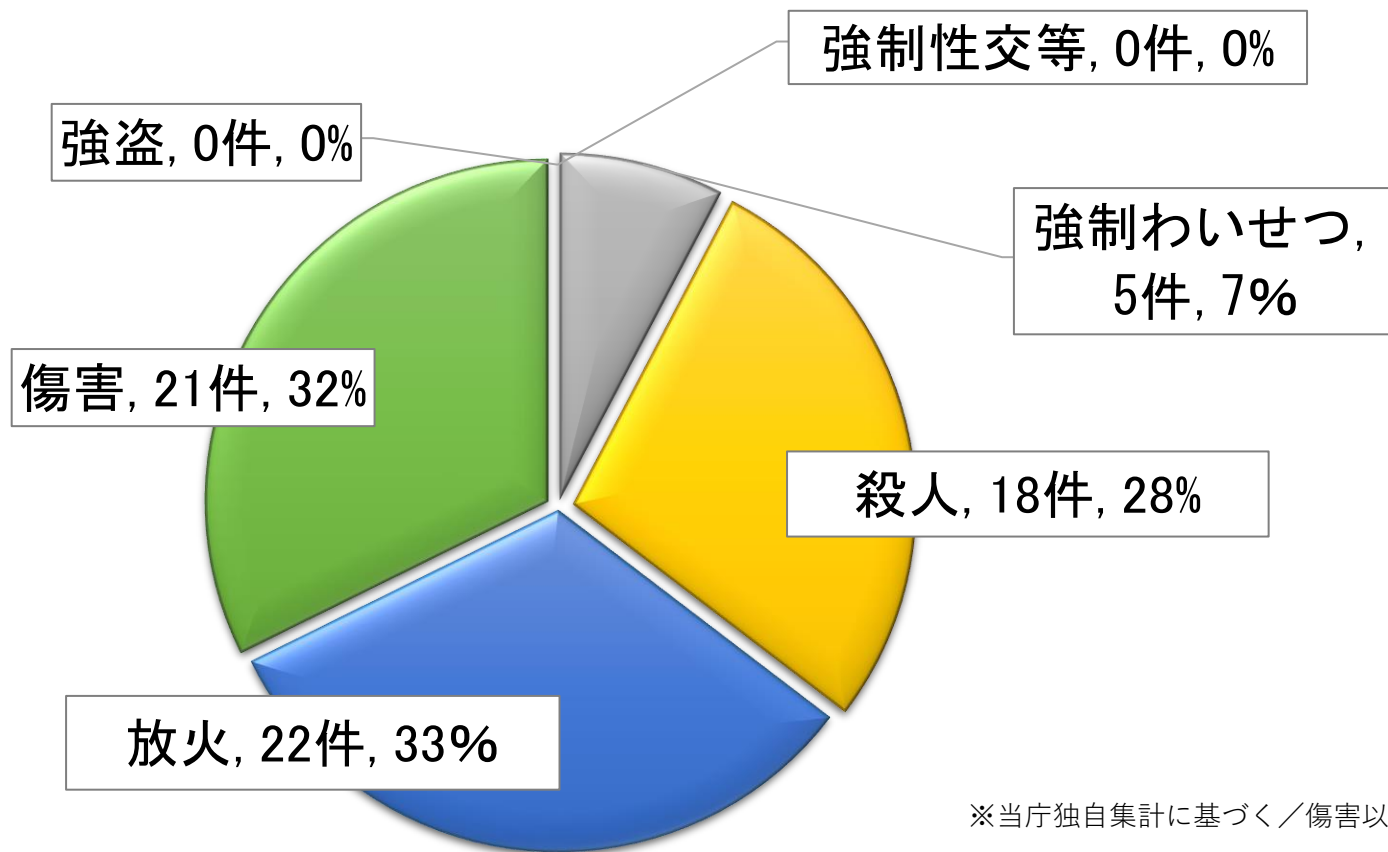




岩手県内における本法申立て時の対象行為(累計)

(平成17年7月15日～令和4年10月31日(速報値))

【対象行為】



※対象行為は、殺人、放火、傷害の3つで全体の約9割を占めます。

※当庁独自集計に基づく／傷害以外は未遂を含む

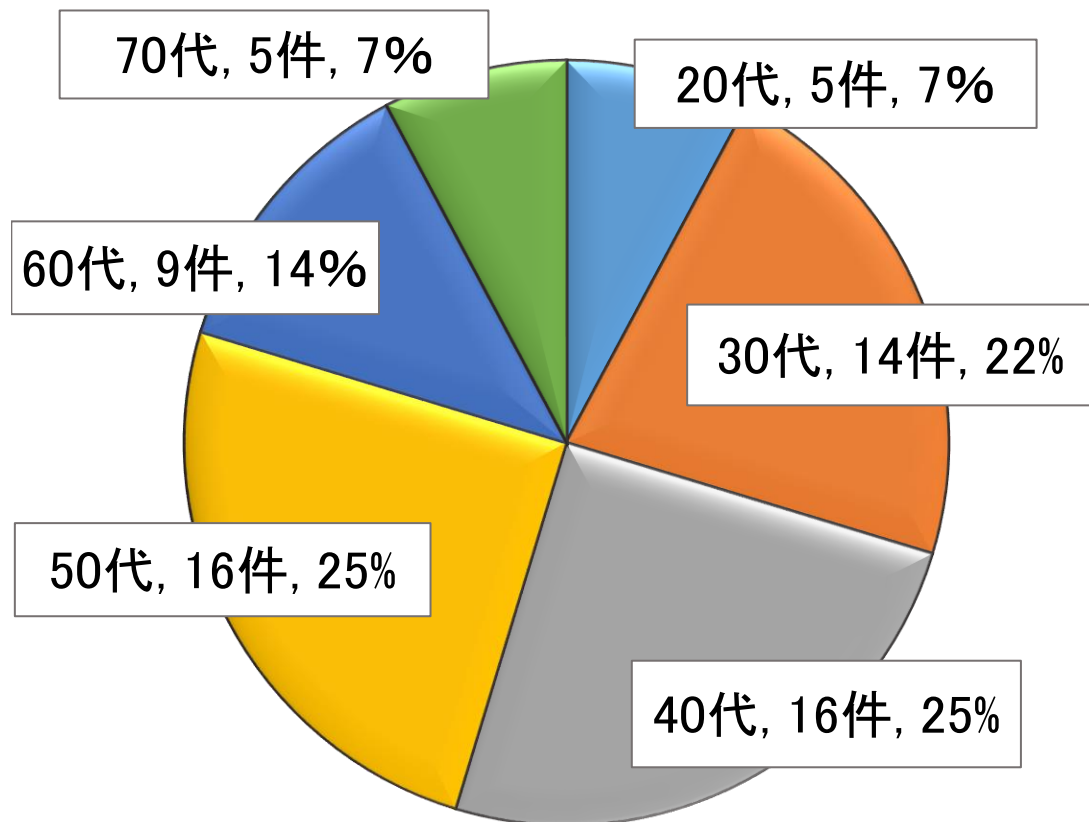




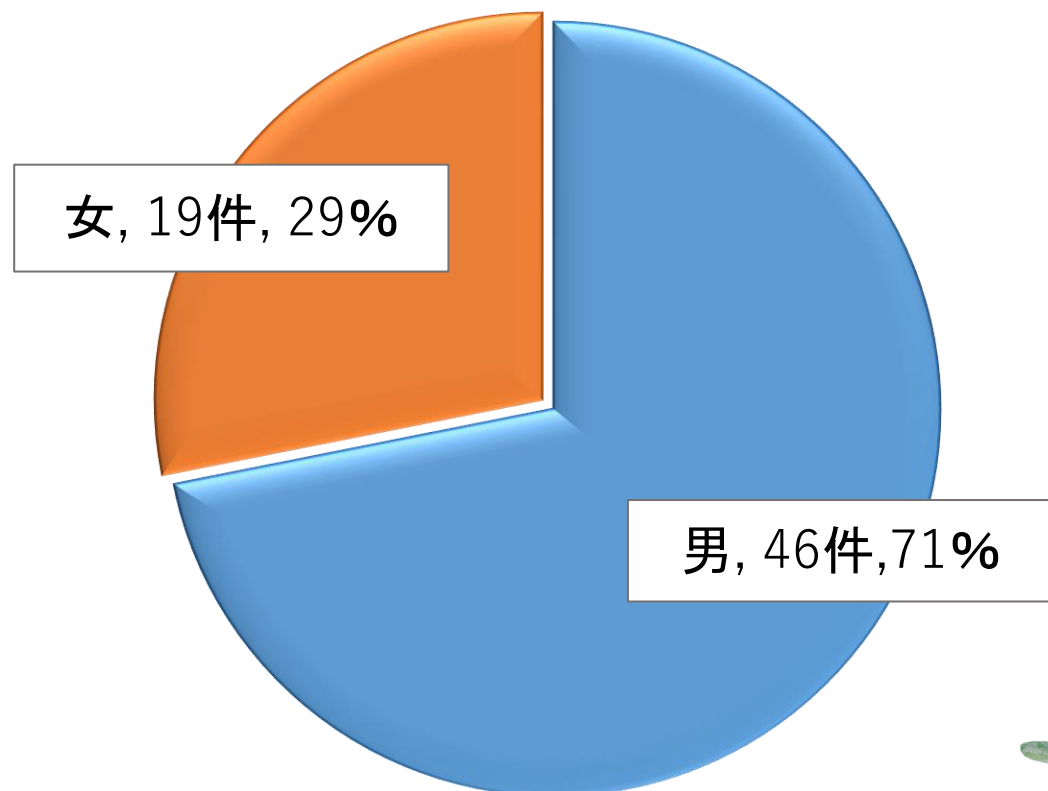
岩手県内における本法申立て時の年代と性別（累計）

（平成17年7月15日～令和4年10月31日（速報値））

【年 代】



【性 別】



精神保健観察事件の係属地域(累計)

(平成17年7月15日～令和4年10月31日(速報値))

【二戸保健所管内】
精神保健観察 3件

【県央保健所管内】
精神保健観察 9件

【盛岡市保健所管内】
精神保健観察 12件

【中部保健所管内】
精神保健観察 8件

【奥州保健所管内】
精神保健観察 1件

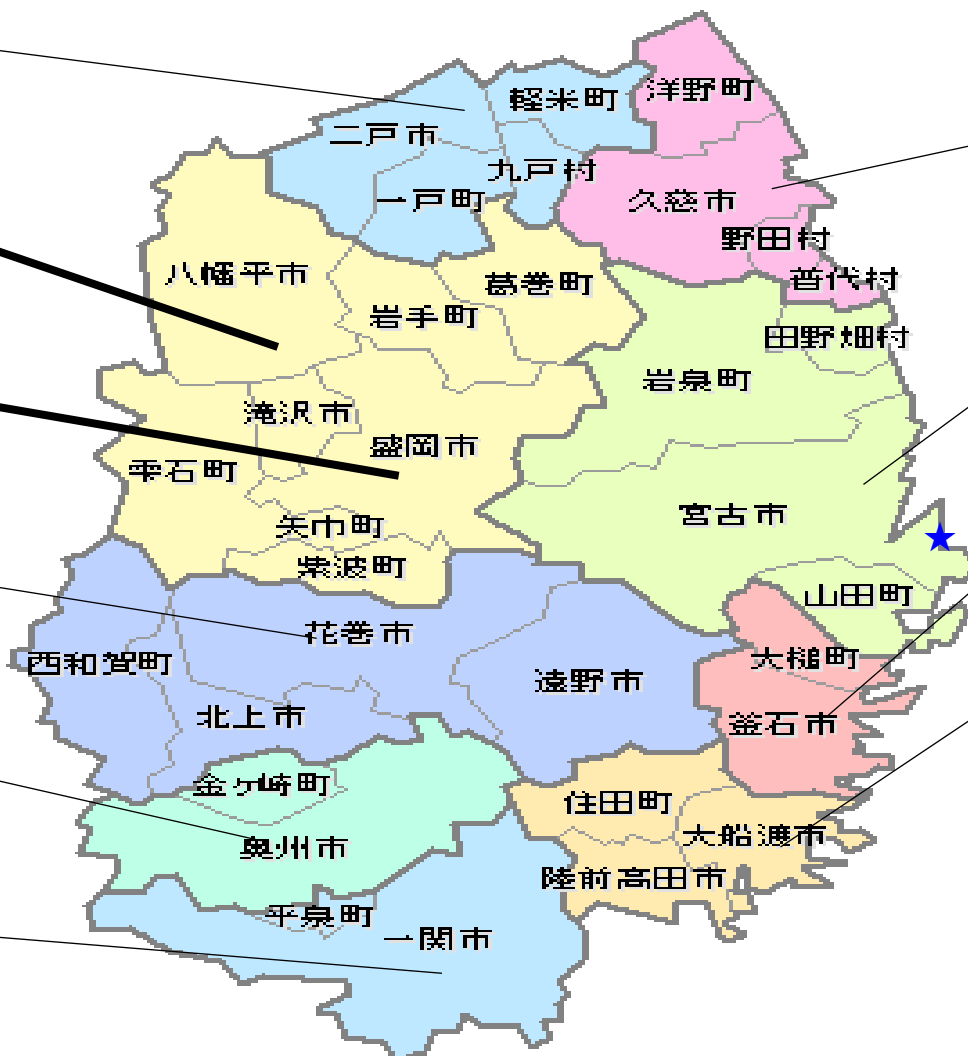
【一関保健所管内】
精神保健観察 6件

【久慈保健所管内】
精神保健観察 2件

【宮古保健所管内】
精神保健観察 1件

【釜石保健所管内】
精神保健観察 0件

【大船渡保健所管内】
精神保健観察 0件



※累計数42件のうち、
盛岡市及び県央保健所管
内で約半数を占めていま
す。



対象者について①

【本法申立てに至った行為の例】

- ❖ 「周囲に悪口を言われている。」と落ち着かず、精神科受診を促す家族に対し自分は病気ではない、受診したくないとの思考から暴力をふるった。
- ❖ 「自分の考えが世界中に筒抜けになっている。」「自分は悪いことをしたから死ぬしかない。」との観念から、自宅に火をつけた。
- ❖ 天の声に従ってコンビニエンスストアでパンを盗み、追いかけてきた店員に対してけがを負わせた。
- ❖ 「周囲から狙われる。」「ヤクザに襲われる。」という恐怖感から自宅に引きこもり、訪ねてきた近所の人にけがを負わせた。
- ❖ 老老介護に疲れ、無理心中を図ったが死ねなかった。


…etc





対象者について②

【調整における課題】



※複合的な課題や困難さを抱える対象者が多いです。
ケア会議などで関係機関と一緒に検討します。






対象者について③

【対象者の理解】

- ✓ 対象行為前まで、通院を継続中若しくは断続的に通院していた者のほうが未受診の者よりも多い。
- ✓ 地域とのつながりもなく、適切な医療や相談支援につながらず、社会的に孤立していた。
- ✓ そのため、被害者は、身近な親族の割合が高い。
- ✓ 病気の悪化による極限状態から、対象行為につながった。
- ✓ 望んでなった病気ではなく、望んで起こした対象行為でもない。
- ✓ 対象者もまた病気が原因で重大な事件に巻き込まれた存在という側面。
- ✓ 社会復帰促進には多角的な視点や立場からの支援が必要である。



※本当は制度にのる前の予防やかかわりが一番大事です。





地域における処遇について①

【関係者からの声など】

- ◆ 触法精神障害者というと怖い、支援が難しいイメージがある。特に対象行為が「殺人」、「放火」とあると引受けが不安である。
- ◆ 普段からもっと複雑なケースを支援している。もともとやっていた。
- ◆ 紙面や口頭での情報より、実際に会ってみると対象者はイメージと違った。
- ◆ 対象者は、特別な事件を起こした人だが、特別な人ではなかった。
- ◆ 医療機関や関係機関との連携体制があり、事業所だけに責任を負わされることがなく、かかわりやすい。
- ◆ 自分たちの勉強になる。社会における必要な役割である。
- ◆ 現状では、人手が足りなく手いっぱいである。予算措置をしてほしい。
- ◆ 保護観察所や医療観察制度のことがよくわからず心配である。





地域における処遇について②

【サービス事業所への相談】

- 保護観察所は、市町村（基幹相談支援センター）、相談支援事業所に協力をいただき、障害福祉サービス事業所の紹介、あっせんや調整をしてもらう。
- 事業所の利用： ①相談・情報提供→②見学→③体験利用→④評価・協議→⑤受入れ可否の判断→⑥利用開始 ※③と④を繰り返し実施。

【地域処遇について】

- 指定医療機関、保護観察所、関係機関の援助による地域支援体制。
- 地域処遇の期間は、原則3年間。
- ケア会議の開催。

対象者、指定通院医療機関（主治医、外来・デイケア・訪問看護スタッフ）、相談支援事業所、グループホーム、就労支援事業所、保健所、市町村（障がい福祉担当、生活保護担当）、精神保健福祉センター、家族（保護者）、社会復帰調整官などが出席。






地域における処遇について③

【障がい者総合支援法において活用できる制度】

- 「地域移行個別支援特別加算」(平成21年4月～)
 - ・対象: グループホームなど居住系施設
 - ・加算: 一日につき、670単位(原則3年を上限)
- 「社会生活支援特別加算」(平成30年4月～)
 - ・対象: 就労系・訓練系サービス事業所
 - ・加算: 一日につき、480単位



※制度の普及
啓発と理解の
促進が、まだ
まだ必要です。

【国の第4次障害者基本計画】 ※来年度改正？

- 医療観察法対象者の社会復帰の促進を図るため、対象者に対する「差別の解消を進める。」、「精神保健医療の提供や医療と福祉が連携した支援を充実させる。」ことが盛り込まれている。
- 今後も、都道府県・市町村障害者計画への働きかけを図る。



「保護観察官・社会復帰調整官による更生保護出張講座」



の御案内

主催：法務省・“社会を明るくする運動”中央推進委員会

メッセージ

犯罪や非行をした人たちもいずれは社会に戻ってきます。犯罪や非行をした人たちが過ちを繰り返すことなく立ち直るためには、本人の強い自覚と努力が必要ですが、それと同時に、地域社会の理解と周囲の人々の支えが不可欠です。

また、近年、犯罪や非行をした人の中には、高齢又は障害による問題や心理的な課題を抱え、自助努力だけでは立ち直りが難しく、専門的支援が必要となる人が多くいるほか、平成29年12月に策定された国の再犯防止推進計画では、「保健医療・福祉サービスの利用の促進等」が重点課題の一つとして掲げられており、刑事司法における福祉等と更生保護の連携の重要性はますます高まっています。

そこで、地域の関係機関の皆様のもとに最寄りの保護観察所の職員（保護観察官等）が出向いて、現場経験に基づいた「更生保護出張講座」を開催しています。

当講座を希望される方は、まずは最寄りの保護観察所にお電話で問い合わせください。

講座の内容等(例)

- 1 更生保護全般について
- 2 更生保護に携わる人々について ～「保護観察官」と「保護司」の仕事とは～
- 3 更生保護ボランティアについて
～「保護司」「更生保護女性会」「BBS会」「更生保護施設」「協力雇用主」とは～
- 4 医療観察制度について ～医療観察法とは、社会復帰調整官とは～
- 5 犯罪予防活動（“社会を明るくする運動”等）について 等

講座形式等(例)

- 1 講義形式
- 2 ゼミ形式
(分科会等の対話形式)
- 3 事例研究

料金・期間等

- 1 講師料は一切不要です。
- 2 通年で申込みを受け付けておりますが、実施日時等については、保護観察所と打ち合わせ願います。

◆本講座に対する照会先◆

“社会を明るくする運動”岩手県推進委員会（事務局：盛岡保護観察所）
〒020-0023 盛岡市内丸8番20号 盛岡法務合同庁舎4階
電話 019-624-3395
「更生保護出張講座の件で」とお問い合わせください。



「保護観察官・社会復帰調整官による更生保護出張講座」申込方法



《ステップ1》まずは最寄りの保護観察所にお電話でお問い合わせください。》

→盛岡保護観察所 電話 019-624-3395 / Fax 019-629-1238

《ステップ2》対応が可能である旨の連絡を受けたら、下記によりお申し込みください。》

申込日： 月 日

(ふりがな)			
団体名等			
ご連絡先	〒		
	TEL:	FAX:	
希望日時等	令和	年	月 日 () 時 から
研修会名・会場等	受講者の属性: 参加予定人数:		
講座内容	<input type="checkbox"/> 更生保護全般について <input type="checkbox"/> 更生保護に携わる人々について <input type="checkbox"/> 更生保護ボランティアについて <input type="checkbox"/> 犯罪予防活動について <input type="checkbox"/> その他(詳細を記載願います。)		
講師の希望	<input type="checkbox"/> 保護観察官 <input type="checkbox"/> 更生保護ボランティア(更生保護女性会員、BBS会員等) <input type="checkbox"/> その他(詳細を記載願います。)		
講座形式	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input type="checkbox"/> ゼミ形式(分科会等の対話形式) <input type="checkbox"/> 事例研究 <input type="checkbox"/> 視聴覚教材の活用 <input type="checkbox"/> その他(詳細を記載願います。)		



- お預かりした個人情報は当講座運営目的以外には使用しません。
- 実施日時等については、保護観察所と打合せ願います。

#生きづらさを
生きていく。



主催 / 法務省

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

第73回 社会を明るくする運動

7月は“社会を明るくする運動”
強調月間・
再犯防止啓発月間です

“社会を明るくする運動”は、
すべての国民が、
犯罪や非行の防止と
犯罪や非行をした人たちの
更生について理解を深め、
それぞれの立場で力を合わせ、
犯罪や非行のない
安全で安心な地域社会を
築くための全国的な運動です。



更生ペンギンの
せうちゃん

更生ペンギンの
のびちゃん

“社会を明るくする運動”に参加しよう！

① 更生保護についてもっと知りたい方は

法務省 更生保護

検索

② お問い合わせは近隣の保護観察所まで

保護観察所

検索

③ 更生保護ボランティアについては

更生保護ネットワーク

検索

法務省保護局
公式Twitter
アカウント

法務省
公式YouTube
チャンネル

法務省保護局
公式Instagram
アカウント



一人になるのが嫌だった。
孤立するのが怖かった。
誰かといないと、不安に押しつぶされそうで。

仲間たちに誘われた時、断れなかった。
自分にとっては唯一で、大切なものだったから、
歪な繋がりにはすがりついた。

この街に帰ってきて一年。
白人な人に囲まれて、いま、自分は働いている。

元気がないと気づいてくれる食堂のおばちゃん。
失敗を笑い飛ばしてくれる先輩。
仕事の楽しさも厳しさも教えてくれる社長。
自分が罪を犯しても、見捨てなかった幼馴染。

たくさんの顔が思い浮かぶ。
それにすごく、嬉しくなった。

一人でなんでもできるようになることだけが
自立じゃない。

困ったら、誰かを頼っていい。

きちんと一人、でも孤独じゃない。

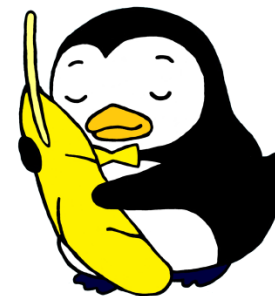
#生きづらさを
生きていく。



ありがとうございました。
今後とも、皆様の御協力をお願いいたします。



○保護観察所は、法務省の機関で各地方裁判所の管轄区域ごと、全国50か所（都道府県庁所在地及び函館、旭川、釧路）に設置されています。



人はみな、
生かされて
生きてゆく。

『生きるマーク』